

議会報告会 会場報告書

担当班：2班 班代表者：木戸 貞一

概要			
地区名：丹南地区 日時：平成31年1月31日(木) 19:30 ~ 20:49 場所：四季の森生涯学習センター 参加人数：17人(男16人・女1人)	【出席議員】 木戸 貞一 小島 政行 國里 修久 園田 依子 栗山 泰三	(1) 開会あいさつ：木戸 貞一 (2) 議会報告：國里 修久 (3) 質疑応答：下記参照 (4) 意見・提言等：下記参照 (5) 閉会あいさつ：園田 依子	挨拶・総括：木戸 貞一 司会進行：小島 政行 報告：國里 修久 受付・記録：木戸 貞一 園田 依子 会場(マイク)：園田 依子

【主な質疑】

質疑・意見	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・商標等を活かしたブランド戦略に関して、「ロゴ」というのは市章と理解していいのか。 ・丹波篠山市に市名が変わったとしても市章は変わらないと理解していいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市章とはまた別のものとご理解ください。 ・議会で質問したところ、昨年の時点では市長は変わらないと答弁しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネル設置に係る許可対象面積を引き下げる篠山市まちづくり条例の一部を改正する条例については篠山市独自のものなのか。また、太陽光パネルを施工等する阪神間の民間事業者を事前に規制できるものなのか。実際、周辺の住宅を見渡すと太陽光パネルが設置されているように見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の改正は、従来300㎡以上のものを許可対象にしていたものを200㎡以上とするものです。これは、事業者の開発等、大規模な太陽光パネルの設置をより厳しく規制するものであり、一般住宅の設置を規制するものではないとご理解ください。

質疑・意見	回答
<p>・6月補正の内容について、町並整備事業と都市計画費の違いは何か。</p>	<p>・町並整備事業は、「御徒士町通り」の名称看板2基、観光客用ベンチ6基、空地となっている市有地2箇所の板塀の設置に係る費用として、設計委託料約33万円や工事費約553万円となっており、また、伝建地区にふさわしいゴミステーション5基と竹林整備にかかる自治会に対する補助金約277万円となっています。</p> <p>次に、都市計画費は、河原町通り及び大手通りの無電柱化事業に係る補正であり、篠山市ではいずれの路線も電力線や通信線を配管する管路を地中に埋設して各戸へ供給する「電線共同溝方式」で無電柱化を図るものです。</p>
<p>・都市計画費に関して、無電柱化により利益を受ける人が費用をいくらか負担しているのか。</p>	<p>・国庫補助を受けて取り組んでいる中、個人的な費用負担はありません。</p>
<p>・市名変更関係事業費である9,150万円について、これは以前に寄付された1億円が充当されるのか。</p>	<p>・1億円の寄付金は「ふるさと振興基金」に積み立てられ、今回の市名変更関係事業費も「ふるさと振興基金」から充当しているが、明確に紐づけられているものではないということをご理解いただきますようお願いいたします。</p>

質疑・意見	回答
<p>・各常任委員会で行っている視察調査をどのように活かしているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生福祉常任委員会では、市内施設の現地踏査に重点を置き、「スマイルささやま」や「こども発達支援センター」を調査しました。施設長等から運営上の課題や、施設の備品や機器の状況などを聞き取りしました。スマイルささやまの現地踏査では、平成31年度の利用者が増加することや、それに伴う施設整備等の必要性を確認したが、その後の9月の補正予算に係る費用が計上されており、実際の審査に活かすことが出来たと考えています。 ・総務文教常任委員会では、小学校において英語教育が導入されている中、福井県勝山市に視察を行い、指導の方法等について視察を行いました。小学校の先生がJTEの方からの指導を受け、授業に活かしている様子を確認しています。 ・議会広報特別委員会では、石川県津幡町や滋賀県甲賀市に視察を行い、余白を大事にする記事づくりやQRコードの活用について学びました。現行の篠山市議会だよりは縦行と横行が混在しており、読みにくいといった声があることから、縦に統一するとともに、議員の一般質問に係る記事にQRコードを掲載しています。 ・産業建設常任委員会では、岐阜県の飛騨市と高山市に視察を行いました。飛騨市と高山市は丹波市と篠山市の構図と似ている部分がある中、高山市においては、飛騨市と連携しながら観光施策を推進するとともに、外国人観光客誘致に積極的に取り組まれています。また、キャッシュレス決裁の取り組みとして、タブレットを活用している兵庫県三木市にある「ネスタリゾート神戸」の事例を視察しました。 ・議会運営委員会では、滋賀県彦根市議会に視察を行い、議会報告会に係る改革の取り組みについて学びました。彦根市議会においては、ワールドカフェ方式による意見交換や特定団体との意見交換を行っています。これまで篠山市議会においても議会報告会を開催してきた中、参加者の方から議員個人の見解を聞きたいという意見をいただくこともあるなど、改善の余地があると考えています。参加者の方から意見をいただく中で、視察内容も踏まえて、今後の方向性を考えていきたいと考えています。

質疑・意見	回答
<p>・旧丹南町時代に篠山口駅西側の土地区画整理事業において電柱の地中化の議論があった。全額公費負担実施できればいいが、実際には地権者の負担があり、その負担に耐えかねることから、実現しなかった経緯がある。地権者が市に土地を渡し、土地区画整理の結果として、駅前広場整備や道路の幅が広くなり利便性が向上した。それと比べると、河原町の無電柱化事業は、全額公費負担で実施するとのことであるが、地域の負担がないことはいかなるものか。合併すればこうした公費の使い方が出来るものなのか。三田市においても、三田駅前を再開発する際に、組合をつくり、土地を減らしながらまちづくりを進めてきた経緯があり、新三田駅の場合も田んぼを埋めて区画整理してきた。こうした事例と比較すると、行政が全てを負担していかななくてはならなくなるのではないかと危惧する。</p>	<p>・意見として聞かせていただきます。</p>
<p>・観光客誘致促進事業に関して、「観光ステーション」で行う駅レンタカー事業について、市が取り組むとのことであるが、民業圧迫にならないか懸念する。</p>	<p>・駅レンタカー事業については、駅の観光ステーション内において、JRと連携しながら市が直営で行っています。英語を話すことが出来る職員を配置する等、外国人観光客の方に対応できる体制の下、軽自動車とコンパクトカーを合わせて2台用意し、多くの方に利用されていると聞いています。民業圧迫に関しては、所管の委員会において意見も出ましたが、結果として市が直営ですることになりました。篠山口駅から市内観光地へのアクセスに課題がある中、広く散策していただくようレンタカー事業に取り組んでいます。</p>

質疑・意見	回答
<p>・2020年には東京オリンピック、2025年には大阪万博が開催されるなど、インバウンドに係る取り組みの重要性が高まってきている。現在の外国人観光客数はおよそ3,000万人といわれているが、これが2020年、2025年には、およそ4,000万人になるといわれている。こうした中、京都や大阪神戸などの都市部だけではなく、日本の原風景の残る地方へ誘導していくことが求められており、また「体験」がキーワードになるといわれている。こうした状況を踏まえ、篠山市議会としてインバウンド施策についての考えがあればお聞かせいただきたい。</p>	<p>・インバウンドの動きとして、いわゆる大阪から東京のゴールデンルートを中心に勢いづいています。京都においては、主に京都市内に観光客が集中しており、大原など市外へ拡大していくことが課題であるといわれています。篠山市にとってこの流れはチャンスであると考えています。貴重なご意見であることから、持ち帰り議会として検討していきたいと思えます。なお、文化庁の日本遺産事業も2020年の東京オリンピックまでに100箇所を認定し、インバウンドに結び付けるといふ戦略を持っていますが、現在のところ効果としては感じにくい状況にある中、うまく活用しながらも、市独自でインバウンドに取り組む気概が必要であるとも感じています。</p> <p>・京都から篠山へ誘導するために、西京街道のモニターツアーなどに地域を中心に組み込まれています。外国人の方は「体験」を求めていることも踏まえ、地域の方々の得意なことを観光客の方と体験として共有できれば、成功が近づくと考えことから、そうした際にはぜひ皆さんにもご協力いただきたいと思います。</p>